

令和6年度 第2回
歩行空間の移動円滑化データワーキンググループ 議事概要

1. 開催日時等

日 時：令和7年3月11日（火） 13：00～15：00

場 所：2号館1階共用会議室1（オンライン参加併用）

〔構 成 員〕

有 識 者：別所 正博 東洋大学 情報連携学部 情報連携学科 教授

江守 央 日本大学 理工学部 交通システム工学科 教授

大西 正輝 国立研究開発法人産業技術総合研究所
人工知能研究センター 社会知能研究チーム
研究チーム長

岩崎 秀司 一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会 理事

自 治 体：東京都 福祉局 生活福祉部 企画課

渋谷区 福祉部 障がい者福祉課（代 デジタルサービス部 ICT センター）

狛江市 福祉保健部 福祉政策課

川崎市 まちづくり局 指導部 建築管理課

事 業 者：JR 東日本コンサルタンツ株式会社

全日本空輸株式会社

株式会社ナビタイムジャパン

WHILL 株式会社

LOMBY 株式会社

ソフトバンク株式会社

株式会社マップフォー

株式会社 ZMP

NPO 法人ウィーログ

アドバイザー：

島本 昌浩 バリアフリーチャレンジ！ 代表

瀬立 モニカ 本プロジェクトアンバサダー／パラカヌー選手

網本 麻里 本プロジェクトアンバサダー／
車いすバスケットボール選手

〔事 務 局〕

国土交通省 政策統括官付

2. 議事概要

(1) 議事

1) 歩行空間ネットワークデータ整備実証について

【1) に対するご意見および質疑応答】

- ・ 形状データの整備について、基盤地図情報等を利用した自動生成の中で多少手直しも必要だったとのことだが、どの程度のレベル感で自動生成が可能か。
 - ・ 具体的な数値は算出していないが、昨年度検証した段階では 8 割前後の精度で自動生成が可能と考えている。今回は、全箇所ではないが、交差点部等の処理に対して多少の改良を行っており、8 割前後にプラス α した程度の精度と考えている。(事務局)
- ・ 渋谷区での実証では、自動生成した形状データをベースに修正し、現地で計測を実施したと思うが、今回の実証でも現地計測が大変だったとの意見が挙がっていた。ネットワークデータをランク区分で設定することで、全てを計測せずとも概ね目視で分かる部分もあると思う。現地では全てのリンクに計測を実施したのか、あるいは目視でできる部分は目視での判断を実施したのか。
 - ・ 今回の実証では、目視で実施したグループもあるかもしれないが、基本的には 1 つ 1 つのリンクに対して計測いただいた。(事務局)
 - ・ 歩行空間ネットワークデータ整備仕様が改定され、ランク区分が設定できるようになったため、ある程度目視でも判断できるのではないかと。目視で判断することで、自治体の整備負担も軽減できると思う。例えば、この程度の縦断勾配であれば 1% である、というような目安があらかじめ提示されることで、データ整備のしやすさも変わると思う。また、3 次元地図 WG でも検討されているが、3D データを使用したリンクへの情報付与や、縦断勾配では国土地理院の高精度な地盤データを使用した縦断勾配の算出等ができる可能性があると思う。あらかじめできる部分は整備した上で、現地で確認し修正するという方法もあると思う。
 - ・ 全部計測するというよりは、絶対に通れないという部分は当事者の方も見れば分かるところがあると思う。当然実測が一番精度は高く、ログの活用等もあるが、目視でこの程度ではないかということも上手く吸い上げられると良い。例えば、資料 3 : P12 で示されている写真のような部分も、奥側の道が車椅子の通行が厳しそうなことは、計測しなくとも分かる気がする。市民投稿を考えると、そのようなレベル感で整備できた方が良いと思う。
 - ・ サンプルのようなものを集めながら、各ランクの実例等を提示できると、データ整備のしやすさも変わると思う。
- ・ 走行軌跡データ等を用いた整備実証について、WheelLog! のデータと、新しい機種を使用した現地計測のデータ (Google Pixel 7) の時期を比較すると、WheelLog! は 2018 年～2021 年のデータとのことで、準天頂衛星に対応したスマートフォン等が出ていない時期だと考えられる。この 2 つのデータの間に、大きな違いはあったか。

- 現地計測（Google Pixel 7）のデータの方が、明らかに精度は良かった。WheeLog!は様々な利用者が実際にアプリを使用して収集しており、収集した年代も古いため、相応のデータ精度であった。（事務局）
- スマートフォンであれば 2020 年～2021 年頃から、準天頂衛星に対応しているものが多く、WheeLog!のデータは対応できていない部分もあると思う。新機種に替わっていくことも見据えて検討できると良い。また、1 回の少ないデータで検証するよりも、車椅子等の多くの方のデータを収集し、ビッグデータ解析のように行うことで精度が向上する面もあると思う。
- WheeLog!の走行ログは、当初より自分で走行した感覚とデータとして出力される感覚が異なる場合に修正する機能があるが、現状はユーザが修正せず、取得したままのデータが多い。また、アップロード後も修正がほとんどない状況のため、機能でカバーすることが難しい。スマートフォンの GPS の違いは確かにあり、新機種の方が精度が良いという点についても、指摘の通りだと思う。検証用に提供したデータは、多少の欠損等により、データが十分でなかった可能性もある。アプリ自体は記録できていた可能性もあると考えており、元データが記録されているかを確かめるとともに、記録されていない場合はもう少し精度の高いデータを収集できるようにしたい。
- 形状データ自動生成について、丁字路交差点部の改良を実施したとのことだが、データの整備縮尺によっては、改良前のデータでも問題は無いのではないか。あえて改良後のように修正した経緯は何か。
 - データの使い方によっては、改良前のものでも問題無いと考えている。歩行空間ネットワークデータ整備仕様に準拠し作成するという点から、改良を実施した。基本的には、改良後のようなデータの方が良いと考えている。（事務局）
 - 基盤地図情報がベースであれば地図情報レベル 2500 だと考えられるが、その地図情報レベルを考慮すると、丁字路の部分は丁字で生成できるよう改良した方が、より歩行空間ネットワークデータ整備仕様に則った形になるということで良いか。
 - その通りである。（事務局）
 - 客観的なデータ整備をするにあたり、整備者による差が出ないように、整備マニュアル等で地図情報レベルを定義した方が、整備する際に分かりやすいと思う。
- 歩行空間ネットワークデータ整備システムの 2D と 3D の違いについて再度確認したい。
 - 歩行空間ネットワークデータ整備システム 2D は、手入力等により、一から歩行空間ネットワークデータを作成し整備するシステムである。歩行空間ネットワークデータ整備システム 3D は、基盤地図情報等をもとに形状データを生成し、3 次元点群データを使用して抽出したバリア情報を付与することで、歩行空間ネットワークデータの整備を行うシステムである。（事務局）
 - 2D と 3D のどちらのシステムを使用しても、2D の歩行空間ネットワークデータが作成され、3D のシステムではより詳細な属性を付与できるということか。

- ・3D のシステムについては、チャレンジングな部分が含まれており、引き続き技術的な検証が必要と考えている。3D のシステムで作成した途中段階のデータに対し、2D のシステムを使用して編集するという整備方法も考えられる。(事務局)
- ・渋谷区の実証で整備したデータは、いつ頃公開される見込みか。
 - ・実証ではテスト的にデータを入力いただいております、オープンデータとすることは想定していない。オープンデータとして公開するのであれば、一度入力いただいたデータについて、内容確認の上修正等が必要である。(事務局)
- ・マップマッチングに使用している基盤地図情報は、今回の検証用に作成されたものか、それとも既に広く一般的に入手できるのか。
 - ・基盤地図情報は、形状データの生成時に使用しているが、国土地理院が公開しているデータである。(事務局)
 - ・日本全国で国土地理院の基盤地図情報を使えば、形状データを生成できるということか。
 - ・その通りである。(事務局)
- ・マップマッチングをする際に、形状データを正として扱っていると思うが、そもそも地図データ自体が間違えている可能性はないのか。
 - ・少なからず可能性はあると考えている。例えば、本来であれば車道の両端に形状データを引いた方が良いケースにおいて、中央のみに引かれる場合がある。ルールの問題が出てくると思うが、その場合、歩行空間ネットワークデータ整備仕様とのすり合わせが必要と考えている。(事務局)
 - ・多様なデータを解析することで、間違えている可能性も踏まえて更新等ができると思う。
- ・マップマッチングの仕組みについて、時系列や方向の情報は落としているのか、それともデータとして提供頂いていないのか。
 - ・座標の取得時刻はデータとして入っていたため、各ポイントの前後関係は把握できると考えている。(事務局)
 - ・マップマッチングには様々な手法があるが、時系列で方向等を考慮し最後にマッチングする手法が一般的に行われる。精度を上げるという観点では、元データとして時系列の情報があるのであれば、アルゴリズム上の工夫により改善の余地もあると思う。
 - ・スマートフォンにも IMU が含まれており、複合して時系列的にフィルタリングする手法もある。性能が上がる余地は大いにあると思う。
- ・渋谷区の実証において、計測にはどの程度の時間が掛かったか。整備時間に対しての効果を知りたい。バリアフリー関係では年に 1 回、当事者と一緒に街歩きを行い、バリアを確認する機会がある。夏に実施することが多いが、当事者の方は体温の管理が厳しいことから、シナリオを綿密に作成して時間を短縮した上で、適切な部分のみをバリアチェックする。今回の実証のように、場当たりにフィールドへ行って整備を行うと、か

なり時間が掛かるのではと懸念している。

- ・各グループ 1~2km 程度実施したが、時間は 1~2 時間程度であった。参加者から意見を頂いたが、今回の現場での計測手法はハードルが高い印象であり、また時間にも比例することから、今後も検討が必要と考えている。(事務局)
- ・ マップマッチングについて、データの取得間隔を距離で算出している。通常は時間で算出すると考えるが、何か理由はあるのか。
 - ・ WheelLog! で取得した軌跡データには、位置座標ごとの取得時刻がないため、実際のデータを確認の上、位置座標間の距離を確認し提示している。(事務局)
 - ・ 準天頂衛星等による精度向上もあるが、衛星数も増えすぎて問題となっているケースがある。また、都市部等で他の建物の影響を受ける場合、マルチパス等により信号強度が弱くなると、データを取得しにくいこともある。検証の項目において、衛星数が挙げられていたが、信号強度も確認できると良い。

2) バリアフリー施設等データ整備仕様について

【2) に対するご意見および質疑応答】

- ・ ママパパマップについて、全くインセンティブが無いにも関わらず、100 件単位の投稿もあるが、これは単純に利用者からの投稿のみで成立しているのか。
 - ・ その通りである。X (旧 Twitter) からの投稿を見ていると、自分も助かったから投稿しようというケース等がある。最初は自ら情報を収集していたが、一定のところから急激に投稿が集まり始めた。最初にフラグを立てることにに対して意義を感じる方もいるようで、初めての投稿が何箇所になったとのレビューをいただくこともある。
 - ・ 対象者が 0 歳~1 歳とかなり限定されており、子どもの成長に従って乳幼児に関する興味が薄くなり、利用者の代替わりが続くと思う。次の世代がメディアに入ってくる入口はどこなのか。
 - ・ 入口は、全て検索エンジンと口コミである。「〇〇 (場所) 授乳室」の検索でヒットする。レビューが非常に良いため、アプリストアで見た方は、ほぼダウンロードいただいている。
- ・ 収集したデータは、項目ごとにオープンデータ化をしているのか。
 - ・ 広告可能な限り減らし、ユーザに対しても無償で提供したいとの考えがある。一方、企業に対しては有償で提供し、ビジネスとして成立するようにしている。
- ・ 事業者の目線から、バリアフリー施設等データ整備仕様の項目が実際に使えるか等、意見があれば伺いたい。
 - ・ 例えば、おむつ交換台は不衛生であるため、ペーパーシートが確認できると良いが、実際の運用面を考慮すると、整備はかなり厳しいと思う。細かいニーズは多くあるが、提示いただいたバリアフリー施設等データ整備仕様の項目で概ねカバーできていると思う。ママパパマップのおむつ用ごみ箱に関する情報は、かなり使われると思って

いたが、イベント数をチェックすると案外使われていないようである。

- ママパパマップは、基本的に投稿による情報を掲載しているとのことだが、投稿された情報に対し、施設管理者から削除依頼があり、対応したケースはあるか。
 - 施設管理者の厚意で休憩室を特別に貸したケースに対し、授乳室ありと投稿されたことがあった。イレギュラーな対応にも関わらず利用者の要望が相次いだことで、施設側から削除依頼があり対応した。このようなケースは、10年近く運用していて5回程度であり、クリティカルな問題は皆無である。そのほか、設備があると思っただけが無かったというケースもあるが、そのような事態があることは利用者が認識しており、修正依頼を上げていただくことで対応している。
- ママパパマップを運用して10年近く経つとのことだが、施設によっては投稿が相当数のものもあると思う。写真は、鮮度が新しいものから順に表示されるのか。
 - 現時点では、投稿の評価が高いものから順に、写真を表示している。本来は、写真の鮮度が新しいものから順に表示された方が良いと考えている。
 - 古い写真は、そのまま残しているのか。
 - ユーザから情報が古いという指摘が入れば、削除するようにしている。ただ、わざわざ間違えていない情報を落とす必要は無く、色々な角度から写真を確認できることもあるため、情報はストックしている。
- ママパパマップにおいて、データの信頼性を確保するために実施されている取組みはあるか。
 - 一部の悪意のあるユーザが不適切なコメントを繰り返す等の事例はあるが、NGワードでユーザを特定し、アカウントに制限を掛ける等の対処は行っている。また、投稿数が多い方が良いと考えているため、書き方のルールに幅を持たせているが、その結果表記ゆれによる修正が複数上がるケースもある。修正依頼が上がった場合は、サイト管理者が目視でチェックして正しい方を採用することで、信頼性を担保している。
- ママパパマップでは、ユーザ登録等も行っているのか。
 - ユーザ登録の機能もあるが、個人情報等が無い方がユーザは投稿しやすい。投稿のしやすさにコミットして運営している。
- 視覚障害者に対する情報項目が、かなり反映されていた。バリアフリーの視点からも、視覚障害者や聴覚障害者に対して重点を入れて頂きたいという思いがあり、良かったと思う。
- 建築設計標準に則したデータ整備になっているか、懸念している。バリアフリー法の建築設計標準で義務基準や誘導基準があると思うが、その観点から抜け漏れが無いか、確認いただきたい。例えば、出入口の間口：80cm等の記載面も含め、この枠組みの骨格に建築設計標準の概念が入っているかが重要だと考えており、これらの観点を導入いただきたい。
 - 今回提示しているバリアフリー施設等データ整備仕様は、建築設計標準等を引用しな

がらフォーマットを作成しているが、全ての情報項目を引用しているとは言い切れない部分もある。基本的にその概念を逸脱することがないように整理しようと考えている。ただし、一部ヒアリング等で最低限用意して欲しいとの意見もあったため、これらについてはヒアリングの内容を優先している部分もある。(事務局)

- 本プロジェクトの中で実施したヒアリングの意見を尊重することは必要だと思うが、国土交通省が建築設計標準を作成している以上、同じ省が実施している本プロジェクトにおいて、建築設計標準のものを汲み取らず、特定の団体へのヒアリングの意見を踏まえて情報項目を採用することは、省内での合意形成や足並みが揃っていないように感じてしまう。障害者団体としては、ヒアリングの意見を尊重いただけるのはありがたいが、国土交通省として実施するプロジェクトであれば、建築設計標準が日本の建築物を設計する上でどのように作り上げていけば良いか、協議の上で組み立てられているものであり、整合等について協議いただきたい。
- データフォーマットの枠組みの中で、乳幼児用施設は「内部施設」データとして定義されているが、乳幼児用施設を「内部施設」データのその他施設データとして格納の上、「バリアフリー施設」データの中で、乳幼児用施設データとして定義した方が、他のトイレや一般施設との整合性がとれると考える。例えば、トイレやエレベーターは建物の設計段階から含まれている一方、センサリールームや授乳室は建物の中に入っているが、フィールドが違うという感覚がある。一般施設と特定対象者への施設という観点から、「内部施設」データと「バリアフリー施設」データが分かれると思うが、乳幼児用施設は子育て家庭という特定対象者への施設となるため、「バリアフリー施設」データに該当するのではないかな。
- いただいた意見のような構成も考えられるが、時代の潮流を踏まえると、乳幼児用施設は個別で良いと考えており、このようなデータ構成としている。いただいた意見を踏まえ、事務局で再度検討を進めたい。(事務局)
- 「内部施設」データは一般的なもの、「バリアフリー施設」データは必要とされる方に向けた対応と考えている。例えば、「内部施設」データに乳幼児用施設データを設けることが時代の潮流ということであれば、それ以外のセンサリーの対応等、時代の潮流に合わせて、他のものも「内部施設」データに入れて欲しいと言われるデータが入るのは違う気がする。「内部施設」データは、一般の人たちという枠組みだと思う。引き続き、議論をお願いしたい。
- 「内部施設」データの中にもトイレのバリアフリーに関する情報はあがるが、詳細な設備については「バリアフリー施設」データで格納されている。粒度が「内部施設」データと「バリアフリー施設」データとで違うと理解しているが、「内部施設」データの中にトイレデータがあり、「バリアフリー施設」データの中にバリアフリースイートイレデータがあると、「内部施設」データの中にはバリアフリーに関する情報が入っていないかのような、用語的なミスリードが生じる可能性もある。説明の部分の用語が整

理されると、違和感が無くなるのではないかと思います。どの粒度で整理するのかという点と、バリアフリー向けの情報なのかという点が直交していることが、違和感の要因かと思う。

- 「内部施設」データと「バリアフリー施設」データの緯度経度の情報が優先項目となっているが、どのように取得すれば良いか。データ整備を行う仕組みを作る上で、想定している整備方法はあるか。この部分がハードルとなり、データが整備されないケースも考えられる。想定する整備方法が無いのであれば、整備しなくても良い仕組みを検討した方が良いと思う。また、「内部施設」データにおいては、内部施設 ID 等の情報項目もあるが、緯度経度が無い場合、場所情報コードを付与することができないため、ID をどう設定するかという点についても、検討が必要だと思う。
- 同一施設に赤ちゃん休憩室が多数存在するケースでは、座標が同じような場所に集中して見にくいという意見はいただく。地図を拡大すると、本来の場所は分かれていて違うというコメントもいただくが、技術的に建物の中のため厳しい一方、ユーザからの要望も多く課題点である。
- 「施設」データ、「内部施設」データ、「バリアフリー施設」データの緯度経度は、それぞれの中心位置を格納することだが、正確に情報を入れるとなると、ポイントを落とす場所の地図情報や平面図が必要である。また、高さのデータも考慮すると、施設の高さ情報や詳細な断面図、立面図等が必要である。例えば、行政の施設のデータを行政が整備するのであれば、図面から地図情報に落とし込んでデータを整備することは考えられる。一方、民間施設の場合、行政だとしてもセキュリティの関係上、平面図を一般的に提供いただくことも難しく、相当ハードルが高いと思う。緯度経度や高さの情報が優先項目となってしまうと、民間施設のデータ整備はかなり大変だと思う。
- 写真から GPS で位置情報も取得できる。現時点では、そのようなものを簡易的に入れていただくことを想定している。(事務局)
- 緯度経度を取得し、行政のデータとして公開するのは正確性の担保が必要だが、民間としてはほこナビ DP にデータを入れてもらい、行政ではなく民間の情報として公開するという考え方もあると思う。各情報項目に対し、行政が入れたデータなのか、もしくは民間が入れたデータなのか把握することはできるか。
- ニーズがあれば、ほこナビ DP の機能への追加を検討すれば良いと考えている。現状、そこまでは想定しておらず、クレジットとして色々な人が整備を行ったデータということを示し、オープンデータとする想定に留まっている。(事務局)
- 現在バリアフリーマップを整備する実証実験を行っているが、行政が入れた情報と民間・ユーザが入れた情報は明確に区分けされている。情報の正確性を担保する観点から、これらは明確に区分けできた方が良いと思う。
- 障害者の方の話を伺うと、案内所の中で手話対応ができる場所は限られており、駅等

では筆談ボード等で対応しているケースがほとんどだと思う。手話に限定されると、「無」がほとんどとなるため、配慮いただけると良い。

- ・写真情報について、福祉のまちづくり条例の整備基準で、建物を建てる時に、市のバリアフリー基準に合っているか、届出に基づき協議をしており、工事完了の際には写真を提出いただいているが、撮り方によって見え方が全く違う。マップ利用者によって写真に対するニーズも異なり、精度良く全てのものを把握しようとする、掲載する写真の枚数は膨大になると思う。また、どのように写真を撮影すれば良いか、現地調査の中でも観測者や担当者によってばらつきが出ることが想定される。写真の撮影年月日についても、情報が格納されないという状況かが把握できず、リスクが懸念される。現状では、歩行空間ネットワークデータ整備仕様で詳細を示すか整備マニュアル等が詳細に作られなければ、実際の運用で迷うケースが想定される。
 - ・ヒアリングにおいても、段差が見えるように撮って欲しい等の要望はいただいている。実際に整備しながら、方法を決めていく必要があると考えている。(事務局)
- ・建築設計標準は、バリアフリー法の政令改正が行われたことを受け、先日も国のWGが行われ建築設計標準の改定が進められていると思う。提示いただいたバリアフリー施設等データ整備仕様は現行の建築設計標準を確認の上作成していると思うが、改定される建築設計標準への対応も必要である。
 - ・改定の動きがあることは把握している。反映できるように対応していく。(事務局)
- ・基本的には、本WGでバリアフリー施設等データ整備仕様について何か決定するわけではなく、来年度実施していくための叩きとして提示いただいた認識で良いか。詳細を確認して気付いた点は、今後も事務局へ意見をお伝えした方が良いか。
 - ・参考資料としているバリアフリー施設等データ整備仕様は、「施設」データの部分までしか提示できていない。詳細な情報項目が入ったものができ次第、構成員の方々に確認いただき、ご意見を踏まえて整備仕様案をまとめる方針である。その後、プロトタイプを作成し、それぞれ追加予定の機能を踏まえた上で、現地実証にて運用面等の整理を行いたい。(事務局)

3) 今後の検討事項について

【3) に対するご意見および質疑応答】

- ・地方自治体の基本構想策定の協議会において、どのような温度感で施策を伝えていくか。地方自治体で必要な準備等の予告や勉強会の開催等が考えられるが、事前にアナウンスしておく、地方自治体もハレーションが起きにくいと思う。
 - ・すぐに、強制的に実施いただくということは無い。関心があるところから実施していただき、事例を増やしていきたい。普及促進フェーズでは、そのような点を見据えて、例えば関心があるところへ提供する教材や人を派遣する体制を作ることを含め、徐々に形を作っていく。関心があるところを教えていただければ、事例の1つとして

対応させていただきたい。(事務局)

- これまで屋外の歩行空間ネットワークデータを対象に検討されているが、公共的な地下空間についても需要があると思う。屋内や地下街も含めた検討も進めた方が良いのではないか。特に、道路管理者が管理している地下道は、道路と同様だと思うため、検討いただくと良い。

- 点群データや PLATEAU データで、屋内と屋外が繋がるようなデータができています。そのようなデータをつかって、ほこナビ DP の機能を使うことで屋内外の歩行空間ネットワークデータの作成も実現できると考えており、事例を作っていけると良い。

(事務局)

- 昨年度、国土交通省都市局の PLATEAU ユースケース開発の中で、弊社の運営するナビゲーションアプリを通じて、一般の方へのアンケートを行った。特に首都圏等では、地下と地上、屋内外がシームレスに繋がるデータへの需要があると感じている。PLATEAU のデータ整備が進み、地方自治体においても 3D の地図データの整備が進んでいる。そのようなデータを積極的に活用しながら、歩行空間ネットワークデータを整備し、ほこナビ DP の中に蓄積していくと良いと思う。
- 渋谷区は盆地地形のため、基本構想において、建物と建物を繋ぐペDESTリアンデッキでネットワークを構築していくという考え方も、1 つのバリアフリーだという形で練っている。ペDESTリアンデッキもネットワークの 1 つとして、検討いただければと思う。
- 駅の出入口等は、一番重要だと考えている。ただ、国土交通省が実施しているアプローチの方法を考えると、データの収集は難しい分野だと思う。交通のオープンデータの分野と、屋外で歩いて移動する分野が繋がると、より活用が広がると思う。長期的に検討いただけると良い。
- センサーでデータを取得できるような場所であれば、ほこナビ DP の機能をつかって、欠損している部分のデータは自分たちで取得し、精度が高い既存のデータに重ね合わせることで、応用できるのではないかと考える。(事務局)
- ママパパマップのユーザからは、乗り換えや移動の需要が一番多い。GPS による問題等もあり実現できていないため、国には実現をお願いしたい。
- 国が直接データを整備することはできないが、例えば交通事業者が持っている駅等の施設データや、PLATEAU をはじめオープンになっている 3 次元データ等を活用し、ほこナビ DP の機能を使うことで、実現できる部分も多いと思う。利用者からのニーズを多くの施設管理者に知っていただき、既存データを活用すればこのようなことができるということを知っていただくことが必要である。成功事例を色々なパターンで複数作っていくことが大事だと思う。(事務局)
- 地下鉄等では、公共が管理しているケースもあり得る。そのようなところは、フィールドとして可能性があるかもしれない。

以上